

栄養学分野

【学士力の考察】（下線部を修正）

このことから栄養学教育では、人間の営みとしての食について幅広い視野を持たせ、多様で学際的な領域の知識と技術の修得を図るとともに、社会で実践できることを目指している。そのためには、社会構造の変化とともに、移り変わる食と健康の課題に対して論理的な思考と実践、学際領域や生活者視点を加えた協働活動、目標に対する評価、成果の発信などの能力を身につけさせることを必要と考え、既存の栄養士養成課程、管理栄養士養成課程のコア・カリキュラムに加え、時代の要請に応じた栄養学教育の視点を盛り込んだ。

【到達目標 1】（修正が無いため省略）

【到達目標 2】（到達度②と⑤の下線部を修正）

2. 栄養・食品・調理の理解に基づいて、個人及び集団の健康維持・増進、疾病予防の活用
に発展させることができる。

【到達度】

- ② 栄養性、嗜好性に配慮して食物を選択し、献立を作成して調理する技能を活用できる。
- ⑤ 食育の意義について理解し、教育機関や地域社会での取り組みを提案できる。

【到達目標 3】（解説の下線部を修正）

3. 食情報・食物確保・食の消費と安全など食環境づくりの必要性を理解し、実践できる。

ここでは、地球規模で食料の生産・流通・配分が行われている現状を理解させるために、食に関する正しい情報の収集と発信、健康的な生活を営むために必要な食物の確保と提供、食の安全や安心に関する食環境づくりへの貢献に取り組みなければならない。そのため、供給者と消費者の両方の視点から食と健康の課題を考え、個人や集団に柔軟に対応できる人間性の涵養を目指す。

- ② 衛生管理対策に関する技術（HACCPシステムなど）を理解し実践できる。